

特集

求む!即戦力人材

P.2

～「やまがた21人財バンク」マッチング事例～



時の人INTERVIEW P.1

NECパーソナルコンピュータ株式会社

執行役員 小野寺 忠司 氏

チャレンジがんばる企業 P.13

株式会社アン・モード(米沢市)

自動車内装用品をはじめ幅広く展開
提案型企業として飛躍



ビジネスフロント P.14

ケイテック 株式会社(酒田市)

LPガスを使ったハイブリッド車の製造・販売。
燃料代を抑え、環境に配慮したバイフューエル車。
サービス体制を構築し海外進出を目指す。



地元産木材を
ふんだんに使った、
木のある生活を
提案する。

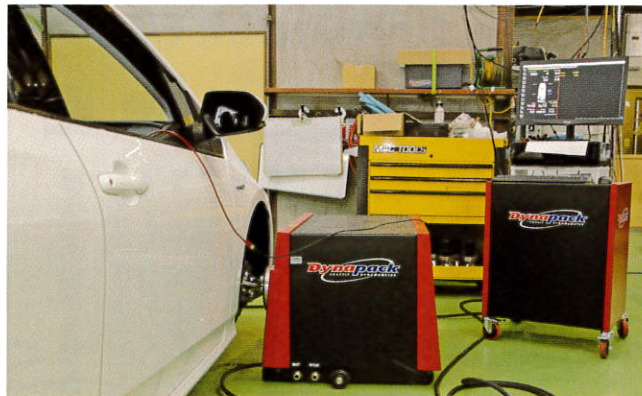
株式会社アイタ工業



新賛助会員紹介 P.16

これまでの技術力を活かし
地域貢献を。

株式会社オーイズミラボ



▲納品前の走行テストをするバイフェューエル車。



▲ケイテックが改造した車に入っているLPG HYBRIDのマーク。

平成28年10月に「独自開発したベーパーライザー（LPガス噴射装置）」の国内生産への切り替えとバイフェューエル車のモンゴル等への海外展開」のテーマで経営革新計画の承認を受ける。

「取引先を通じてモンゴルの企業と接点をもりました。モンゴルも環境汚染の問題が声高に叫ばれていて、車の燃料を環境に優しいものにシフトしようという流れなんです。それでモンゴルに行つたのが2年前。行って驚いたのが、日本車、特にプリウスが人気で、10台の内3〜4台はプリウスでした。ハイブリット車は輸入関税がかからないこともあって、大量に輸入されているんですね。今年の7月からはLPガス車も関税がからなくなり、より輸出しやすくなりました。また、モンゴルは月収が2〜3万に対して燃料代が1リットル80〜

海を渡るバイフェューエルの日本車。よりよい品質を求め、部品の国産化も準備中。

「1リットルあたり3〜4割はお得」と小松氏は語る。

販売を開始した6年前は、ディーラーからの理解が中々得られず、また車のシステムを正しく認識してもらうのも大変だった。しかし、地道な営業が実を結び、販売を開始した当初は、2ヶ月に1回程度の頻度で中古車を改造していたのに対し、現在は、年間で200〜300台を販売し、その8割は新車への改造となっている。32社の販売店を取り扱い、リース会社との取引も多い。

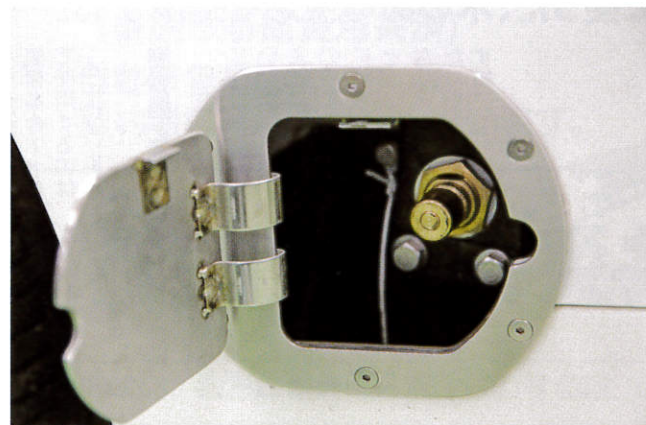
経営革新計画承認企業

まず、海外展開とともに、独自開発したベーパーライザー（LPガス噴射装置）の国内生産への切り替えも力をいれている。これは、今まで中国の協力工場に製造を委託していた、ベーパーライザーの主要部品であるゴムパッキンを日本製に変更するもので、山形県工業技術センターの協力を得て最適な材質を特定し、国産に切り替える準備をしている。品質の向上にも手を抜かない。

「まずはモンゴル進出を進めています。日本の中古車は世界で人気ですが、いろいろな国からオファーをいただいています。また、アメリカでもLPガス車への関心が高まっている状況です。そんな世界の動向を受け、日本でもLPガスへの規制緩和が進むことを期待しています。コスト的にも技術面でも簡単に取り付けられ、国内外で普及していけば、ガソリン、電気に続き、第三の燃料源としてLPガスが広まる未来もそう遠くはないのかもしれない。

今後のモンゴルでの展開としては、年内に再度訪問し、LPガスキットの取り付け指導や、中古改造車の商談を計画。更に山形県発明協会の支援を受け、海外商標の取得を進めるなど、モンゴルでバイフェューエル車を走らせる準備を着々と進めている。

100円と、日本人の感覚で考えれば、1リットル1,000円もする高い買い物。だから、とても燃費を気にするんです。



▲ガスの充填口。既存のガソリン給油口の横にスペースがない場合は、写真のように新たに充填口を製作する。



▲実際に取り付けられるLPガスボンベ。車の下や後部座席に取り付けられる。



▲代表取締役 小松 豊氏

BUSINESS FRONT ビジネスフロント

ケイテック 株式会社（酒田市）

所在地：酒田市大宮町一丁目4-10
TEL：0234-23-5066
URL：http://k-techcorp.com



ケイテック 株式会社（酒田市）
LPガスを使ったハイブリッド車の製造・販売。
燃料代を抑え、環境に配慮したバイフェューエル車。
サービス体制を構築し海外進出を目指す。

自動車工具の輸入販売から、LPガスハイブリッド車の製作・販売へ。

「法人化したのは平成22年ですが、その前の8年間は個人事業主としてアメリカの輸入工具の販売をフランチャイズで行っていました。工具やオイルなど車に関するものを、様々な会社から仕入れて販売していたんですが、そのうちの1社から『海外製のガスの機械があるんだけど小松さんのところで販売できない？』と持ち掛けられたんです。それが、現在販売しているLPガスのキットでした。」

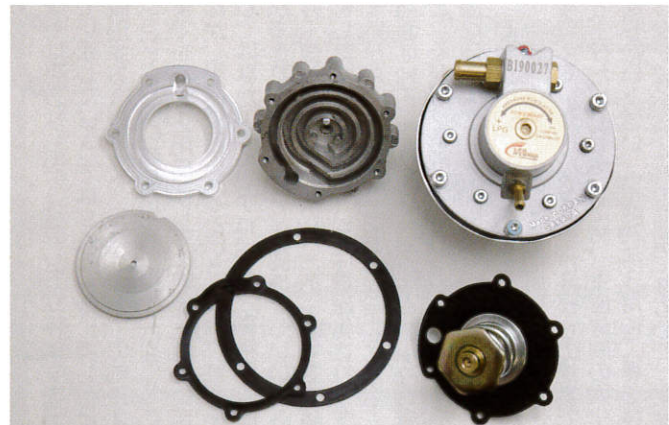
酒田市のケイテック株式会社で取り扱うバイフェューエル車とは、一つの動力源（エンジン）に、複数の燃料（LPガス（液化石油ガス）とガソリン）を使用した車のこと。ケイテックでは、従来の自動車に加え、ハイブリッド車にもLPガスのキットをつけて販売している。

「よく勘違いされるのは、ガソリンのシステムを全て取っ払ってLPガスだけで走行するように改造しているのではないかと、ということ。バイフェューエル車は、ガソリンのシステムも残しているんです。普段は安いLPガスで走り、ガスがなくなつたときにガソリンで走るようにしています。」

認可が厳しい日本に合わせた、LPガスキットの販売スタイル。

「海外製のガスの機械販売を最初に提案されたとき、取扱説明書もなく、日本で合法なのかもわからなくて戸惑いました。いざ商品にしようとして調べたら、日本は規制が厳しくて、車は国土交通省の管轄なんですけど、LPガスのタンクは経済産業省の管轄。車検の問題もあるし、車種ごとの認可が必要でハードルが高かった。海外だと、自分が今乗っている車にLPガスキットをつけるだけのイメージなんですけど、日本だと車種ごとの認可を通すだけで何十万とかかってしまうので、現在はプリウス50やノート、ハイエースなど車種を限定して販売しています。」

個人、法人にかかわらず、タクシーや営業、貨物運送を行っている方など走行距離の多い方が購入するという。ガソリンは満タンにせず10リットル程度を給油し、基本的にはLPガスで走行。LPガスとガソリンの燃料代を比較した場合、



▲ベーパーライザー（LPガス噴射装置）の部品。手前のゴム部品を国産化する予定。



▲フランチャイズで工具販売をしていた頃の表彰状。全国の店舗で一位になったことも。